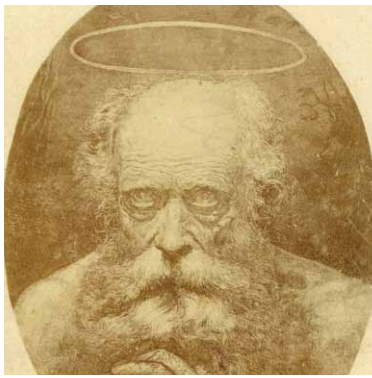




い

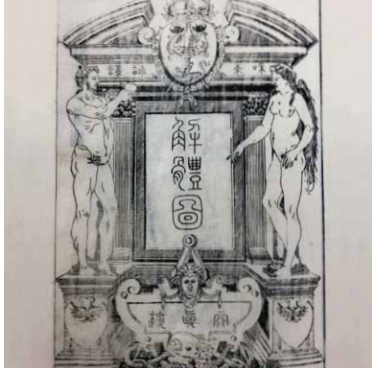
や

す

な

お

す



た

も

つ

文書館資料にみる 病気・医療・健康 2016.6.1^{Wed} - 5^{Sun}

入場無料

〈主催〉山口県文書館 〈共催〉山口県文化財愛護協会
〈後援〉全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、山口県地方史学会



中国四国地区
アーカイブズ
ウィーク
第11回

中国四国地区アーカイブズウィークは、
文書記録（アーカイブズ）の重要性と
その保存利用をPRするため、中国四国
地区の文書館・公文書館施設が共同して
毎年実施している事業です。



もん じょ かん
山口県文書館

開館時間／火曜～日曜 9:00～17:00
閉館日／月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間
〒753-0083 山口市後河原150-1
TEL (083) 924-2116 FAX (083) 924-2117
<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

いずれも当日受付、先着順 / 参加無料です。

アーカイブズ展示

〈文書館閲覧室〉

「いやす なおす たもつ
～文書館資料にみる病気・医療・健康～」

江戸時代を中心に、病気・医療・健康に関わる
文書館資料を紹介します。

6月4日(土)・5日(日) 9:00～17:00

ギャラリートーク

〈文書館閲覧室〉

文書館専門研究員が展示解説を行います。

6月4日(土)・5日(日)
10:30 / 16:00

定員
各30名

歴史探究講座

〈県立山口図書館レクチャールーム〉

「近世防長の医療と医学」

近世防長の医療と医学の歴史を探ります。
講師／中澤 淳(山口大学名誉教授)
文書館専門研究員

6月4日(土) 13:15～15:30

定員
250名

文書館書庫見学ツアー

文書館書庫を特別公開します。
大量の文書群に感動間違いなし!

6月1日(水)・2日(木) 10:30/14:30
3日(金) 9:30/14:30
4日(土)・5日(日) 9:30

定員
各10名

文書館を使ってみよう!

〈県立山口図書館第1研修室・文書館閲覧室〉

文書館の利用方法をガイドします。

6月3日(金) 10:30～12:00

定員
30名

アーカイブズ歴史小話

〈県立山口図書館レクチャールーム〉

文書館専門研究員がテーマ「いやす なおす たもつ」に
関わる「ちょっといい話」をリレー形式で紹介します。

6月5日(日) 13:15～15:45

定員
250名

◎第11回 中国四国地区アーカイブズウィーク日程

	6月1日(水)	6月2日(木)	6月3日(金)	6月4日(土)	6月5日(日)
アーカイブズ 展示				● 9:00～17:00	● 9:00～17:00
ギャラリー トーク				● 10:30/16:00	● 10:30/16:00
歴史探究 講座				● 13:15～15:30	
文書館書庫 見学ツアー	● 10:30/14:30	● 10:30/14:30	● 9:30/14:30	● 9:30	● 9:30
文書館を 使ってみよう!			● 10:30～12:00		
アーカイブズ 歴史小話					● 13:15～15:45

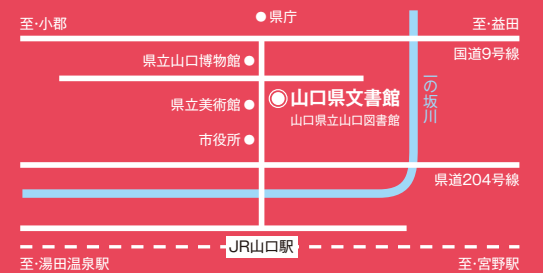
第11回 中国四国地区アーカイブズウィーク

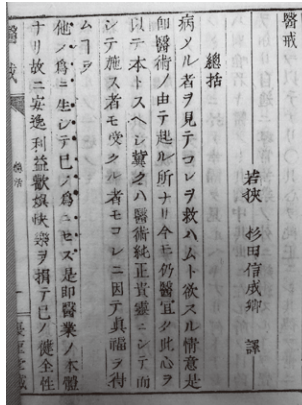
◎ウィークの期間中、閲覧業務は通常どおり行います。
(但し、6月4日(土)、5日(日)を除く)

アーカイブズウィークとは、「公文書館法」の施行(昭和63年6月1日)を記念し、
文書館の業務に対する理解を広め、アーカイブズ(記録資料)の保存・活用を促進
するPR事業です。期間中、中国四国地区の文書館施設で様々な行事を行います。

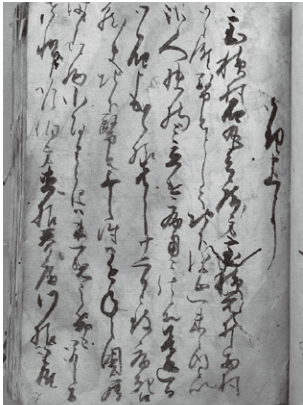
山口県文書館

〒753-0083 山口市後河原150-1
TEL (083) 924-2116 FAX (083) 924-2117
<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>





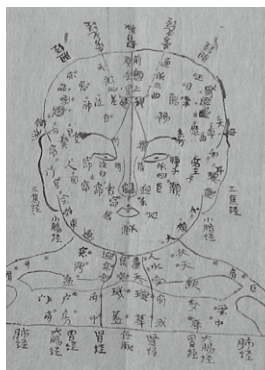
① 医者の心得



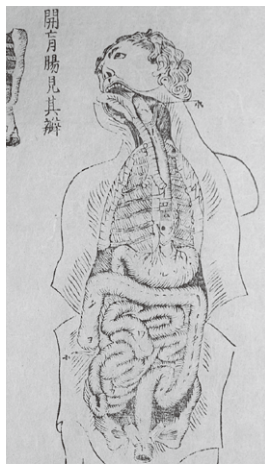
② 地域が支える医者



③ 種痘



① 灸点図



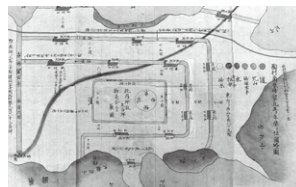
② 解体新書



④ シーボルト
からの手紙

③ 医聖
ヒポクラテス

医学あれこれ



⑤ 薬草園を造る



⑥ 秤

①「医戒」は、ドイツの医学者フーフェランドの著書の一部を杉田玄白の孫にあたる杉田成卿(1817～59)が訳出したもので、その冒頭には、「病メル者ヲ見テコレヲ救ハムト欲スル情意是即医術ノ由テ起ル所ナリ」とあります。医者たちは、医療を担う努力や研鑽を怠りませんでした。武将たちは医者を戦場や鷹狩りに同道させましたし、健康観察・管理のために常に身近に置いていました。村や町の人々も医者を頼ると同時に尊敬し、また共同体として医者を扶助することもあったようです②。人類にとって最大級の脅威であった天然痘などの伝染病撲滅に注がれた医者たちの努力は、世界中の人々に大きな幸福をもたらしました③。

医者と人々

- ① 医戒(小野家文書1072)
- ② 熊毛幸判本控(県庁伝来旧藩記録・幸判本控20)
- ③ 善那氏種痘発明百年記念会報告書(小田家文書(山口市吉敷)245)

第11回 中国四国地区アーカイブズウィーク



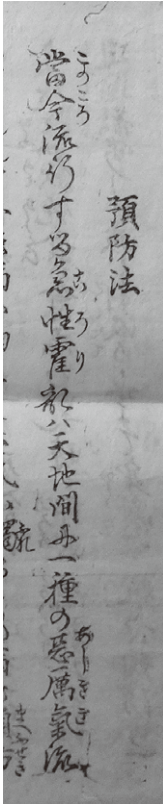
文書館資料にみる病気・医療・健康

中国四国地区アーカイブズウィークは、文書記録(アーカイブズ)の重要性とその保存利用をPRするため、中国四国地区の文書館・公文書館施設が共同して毎年実施している事業です。28年度、山口県文書館では、「いやすなおす たもつ」文書館資料にみる病気・医療・健康」と題して開催します。ひとびとがとねに高い関心を持ち続ける病気・医療・健康をテーマに、江戸時代を中心とするその歴史の「コマ」を文書館資料から紹介し、健康や医療を考えるひとつのきっかけを提供したいと考えています。

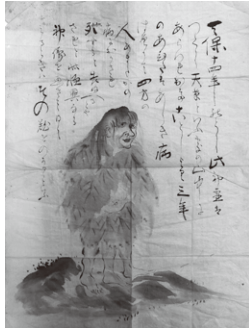
- ① 灸法口訣図(尾崎家文書104)
- ② 解体新書(小田家文書(山口市吉敷)53)
- ③ ヒポクラテス写真(小田家文書(山口市吉敷)194)
- ④ シーボルト書翰和解(松永家文書(山口市)19)
- ⑤ 陶村南原砂留凡五ヶ年限ニテ仕調略図(松永家文書(山口市)55)
- ⑥ 秤(日野家文書146)

江戸時代後期まで、医術といえば中国伝来の伝統医療のことでしたが①、18世紀半ばに山脇東洋が初の人体解剖で蘭書の正確性を証明し、杉田玄白や前野良沢らによる「蘭学」が始まると②、これらを勉強した「蘭方医」が登場しました。③は西洋医学の祖と崇められるヒポクラテスの肖像です。しかし、下関長府に生まれた元富独嚙庵のように、多くの医者は双方の医学に通じ、また和漢の教養人でもありました。④⑤は鑄銭司村で医業と薬草園を営んだ松永家の資料で、シーボルトから求められた薬草標本を送った礼状と、苦労を重ねて開いた薬園の略図です。萩城下にも数か所に薬園が設けられていました。⑥は、藩医であった日野家に伝わった医療用の秤です。

- ① 予防法(コロリ)(河崎家文書2092)
- ② 疫病除天草神霊画(吉崎家文書415)
- ③ (左) 疱瘡守札(吉田家文書(上関町)368-2)
- ③ (右) 雪舟筆鍾馗像木版(安部家文書1379)
- ④ 毛利元就書状写(関関録差出原本522「内藤二郎左衛門」)



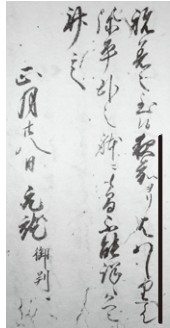
① コレラの
流行



② 疫病を予言する
神霊



③ 疱瘡除けの護符



④ 毛利元就の
歯が「走る?」

病気と祈り

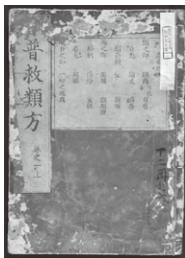
疱瘡(天然痘)やコレラ①、赤痢といった伝染病は、人々を苦しめる恐ろしい病気でした。昔の人々は、これを悪神のもたらすものとし、その悪神を調伏したり③(右)、また逆にもてなし祀ることで、その災いから逃れようとした②・③(左)。病気から回復したい、また健康でいたいという願いは、護符(ごふ。お守りや祈祷札)という形をとって、文書館にもたくさんの資料がのこっています。④の「歯がはる」という表現は県民にはおなじみのものですが、痛みの感覚をよく伝えています。あまりの痛さに元就は寝込んでしまっています。



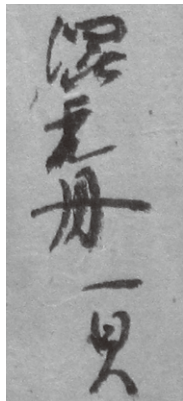
① 養生訓

身を保つ

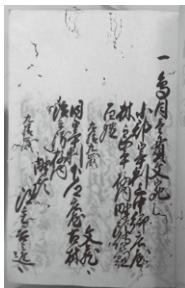
- ① 養生訓(佐藤家文書255ほか)
- ② 普救類方(塩田家文書と漢124～135)
- ③ 御昇進二付地町高寿之者え鳥目被遣一件(毛利家文庫35賞罰34)
- ④ 杉弘相書状(浦家文書巻1)
- ⑤ 葉入棚(佐川家文書(大島町)668)



② 江戸時代の
「家庭の医学」



④ 戦国時代の
「プラセンタ」



③ 長寿者の頭彰



⑤ 置き薬

江戸時代には「健康」という言葉はなく、健康を維持するという意味で、「身を保つ」という言い方をしていたようです。養生を旨とし①、病や医療に関する簡単な知識をもつことで②、人々も病気の予防や簡単な治療につとめ、長寿者を尊びました③。また江戸時代以降、越中富山や長門の伊佐などから売薬業者が全国を回り、人々の薬の服用が一般化しました⑤。文書館にはたくさんの薬袋が残っており、その様子をしのぶことができます。④は健康補助食品としてもいま話題の「プラセンタ」(混元丹)です。すでに戦国時代には贈り物としてあり、貝に詰めて運ばれていたことがわかります。